



## 愛川ふれあいの村 11月の風景

# 平成26年11月 自然のたより

立冬を迎え、早朝には地面に霜が降り始めました。日中は太陽の光に当たると暖かいです、日が陰ると一気に気温も下がり、冬の訪れを感じます。村内も木の葉が落ち始め、冬を越す準備が着々と進んでいます。冬に日本に渡ってきて越冬するツグミが、村内の芝生の上を歩いてエサを食べています。



琵琶の花



イチョウ並木



真っ赤に染まったイロハモミジ



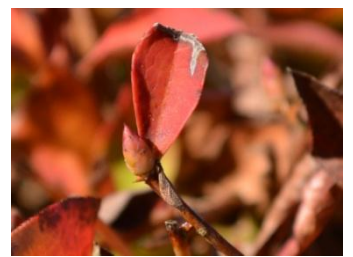
霜が降りたイチョウの葉



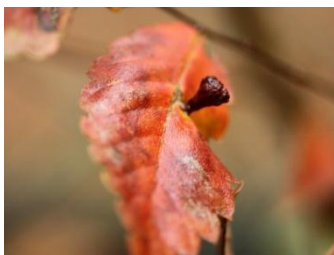
遠くを眺めるツグミ



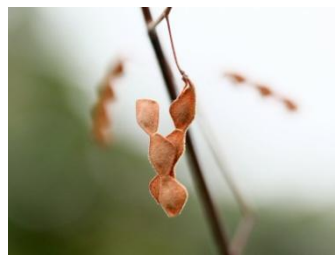
コセンダングサ



紅葉したドクソウツツの芽



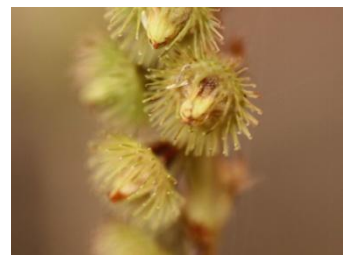
ケヤキの虫コブ



アレチヌスビトハギの種



コメゴケ



キンミズヒキの種子



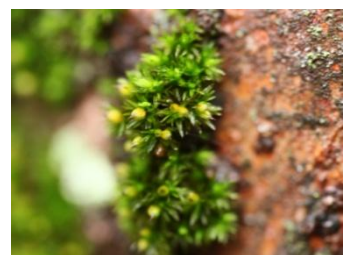
タデマルカメムシ



割れたウバユリの果実



ナツツバキの冬芽



タチヒダゴケ



## ★洋服や靴にくっつく「ひっつき虫」★

外国から日本にやってきた「ひっつき虫」を紹介します。

植物は子孫を残すために様々な手段を持っています。その中で種を人や動物にくっつけて遠くに種を運ぶ植物は「ひっつき虫」や「泥棒草」と呼ばれています。村にはフックのような毛が生えている「アレチヌスビトハギ」や、写真のようなトゲトゲの「コセンダングサ」があります。その二種類は外国から日本へやって来た「外来種」です。

コセンダングサなど繁殖力の強い外来種は、昔から日本に生息する「在来種」と生存競争をし、在来種を絶滅させてしまう危険性があります。在来種の生息地やその地域の環境を守るためにも、他の場所へ拡散させないように配慮が必要です。



## ★オールマイティーなクモ★

家の中でも外でも、どこでも見かけるクモ。実はこの『クモ』は生態系の中で「食べて食べられる」関係の『中間捕食者』という位置にいます。クモが他の昆虫を捕えることで、昆虫類の爆発的な繁殖を防いでくれます。反対にクモも食べられ、過剰な繁殖を防ぐことに繋がっています。

クモが苦手な人もおり、あまり注目されませんが、私たちの生活の中でも、カやハエ・ゴキブリなどを捕えていて、重要な役割を担っています。『食物連鎖』によって弱い者が強いものに食べられる自然界のシステム。このシステムがなければクモだけでなく、生き物のバランスは崩れてしまいます。他の昆虫を捕まえる為のクモの巣も、視点を変えれば必要不可欠なものになります。クモの巣をむやみに壊さないようにしましょう。



▲コハナグモ



▲巣を作るジョロウグモ（メス）

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子・葉青芳・清水敏明

文章：大瀧裕基子・葉青芳 イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村  
で、検索★

**ひっつき虫**

【外来種とは】  
他の地域から人間の活動によって持ち込まれた生物の事を言います。生態系などに重大な影響を与えます。

ひっつき虫のコセンダングサやアレチヌスビトハギは外来種です。

【在来種とは】  
人間の影響を受ける前からその地域に生息、繁殖している生物の事。

コセンダングサは繁殖力が強く在来種と生存競争をして生息地を奪ったりするおそれがあります

ひっつき虫は色々な手段で人間の服や動物の毛にひっついてきます

その性質を利用してフェルトにつけてお絵かきや遊ぶなど楽しい遊び道具にもなります

ただし外来種の場合は他の場所へ拡散させないように気を付けて遊びましょう！

「なかなかとえな」といって遊ぶ